

令和4年度

研究のまとめ

学校教育目標

自ら学び 豊かに関わり合い たくましく生きる児童の育成

研究主題

「主体的に学び、自分の考えを
生き生きと表現する児童の育成」



佐倉市立志津小学校

仮説の検証

仮説1 問題文に提示された内容を的確に読み取るための手立てを工夫すれば、主体的に問題解決に取り組むことができるであろう。

- 手立て 《授業での取組》
- ①具体物の提示…問題文に出てくる物を実際に用意することで、イメージをしやすいとする。
 - ②身近な素材を活用…自分たちの生活に関わることや慣れ親しんだ物を問題の素材として取り入れる。
 - ③板書の工夫…問題文の中でキーワードになる部分に下線を引く。ヒントとなる既習事項を掲示する。
 - ④ICTの活用…タブレットやパソコンを使い、写真や動画を出す。

仮説2 筋道を立てて考えを表すための手立てを工夫すれば、児童の表現力が育つであろう。

- 手立て 《授業での取組》
- ①学習形態の工夫…ペアやグループで多様な考えを出したり、意見交換をしたりする場面を設定する。
 - ②タブレットの活用…自分の考えをタブレット内に絵や図、式や表などを書き込み、思考の過程や結果を説明する。
 - ③思考語彙を意識した発表の話型の活用（基本的な発表方法の習慣化を図る。）
 - ④具体物や半具体物の活用

第1学年 「かたちあそび」

<仮説1>

○教科書の写真（箱を積み上げている様子）と高いタワーの写真を提示することによって、子どもたちは課題を的確につかみ、意欲的に活動することができた。

△課題をつかませた後、大型テレビに活動の流れを映すことによって、児童も見通しをもちスムーズに活動することができたと考える。

<仮説2>

○タブレットで写真を撮影し、それを見ながらグループで話し合うことで考えを深めることができた。また、ワークシートは書き出しの文を提示することで、説明の観点が明確になった。

△話型を活用しながら、自分の考えを人に伝える経験を更に積ませる必要がある。



第4学年 「角の大きさの表し方を調べよう」

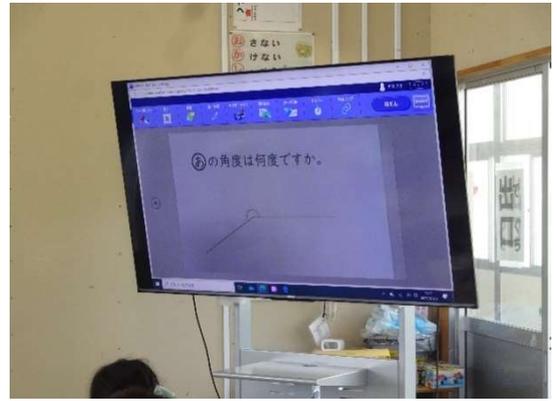
<仮説1>

○既習で求められる角度と本時で求める角度をフラッシュカードで比較させる導入を行うことで、多くの子が的確に課題をつかむことができた。

△自立解決のために見通しを持たせる時間を長くとしたことで、一人一人の自力解決のチャンスを減らしてしまった。

<仮説2>

○自分の考えを説明する時の手立てとして、「まず」「次に」などの話型を提示したことで、説明しやすくなり、全体の前で発表する時にも分かりやすく話すことができた。



第5学年 「面積の求め方を考えよう」

<仮説1>

○課題把握の際、台形を広げると平行四辺形になる教材を提示し、台形の意味や性質等について確認した。その後、台形を広げ正解が平行四辺形だったことを伝えることで、台形を二つ重ねると平行四辺形になるということを実感的に捉えさせるとともに、それでも台形の面積を求めていきたいという思いを共有し、主体的な問題解決につなげることができた。

△ムーブノートのスタンプ機能を使った評価というのを行ったが、それを次の時間にどのように生かしていくかということについてさらに研究が必要である。

<仮説2>

○ペアでの発表の場を設けることで、自身の考えを発表しやすい状況を作り、全員が必ず発表できた。また、グループ、全体へと話し合い活動を広げていくことで、自身の考えを更新しながら説明を発表したり聞いたりする活動を繰り返すことで、考えを明確にし、自信をもった発言につながった。

△情報機器にトラブルが発生した。全体発表の場では、考えをまとめたノートを、スクリーンに映し出しながら発表させ聞き手に視覚的な理解を促すことができた。安定したネット環境の整備が必要だと感じた。

第6学年 「分数のわり算を考えよう」

<仮説1>

○ホースなどの具体物を提示することで、長さのmと重さのkgが区別しやすかった。

○分数部分を整数に直して立式する手立てをとったことで、すんなりと立式することができるようになった児童が多かった。式を正しく立てられることで、正答を出せる児童の割合が多かった。

<仮説2>

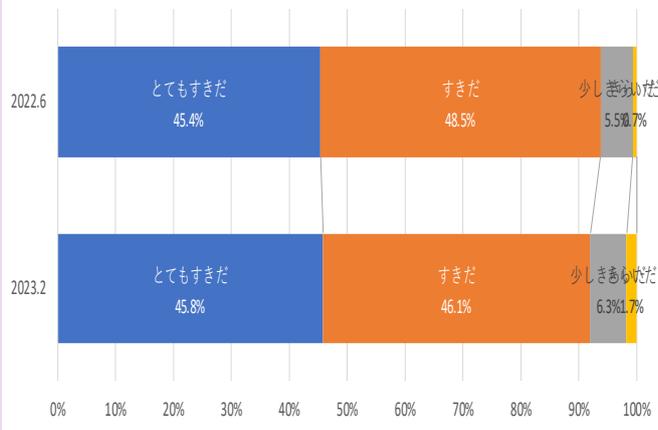
○話し合いを行う際に、ペアから始めることで説明の回数を増やし、発表に慣れさせるとともに内容の精選ができた。



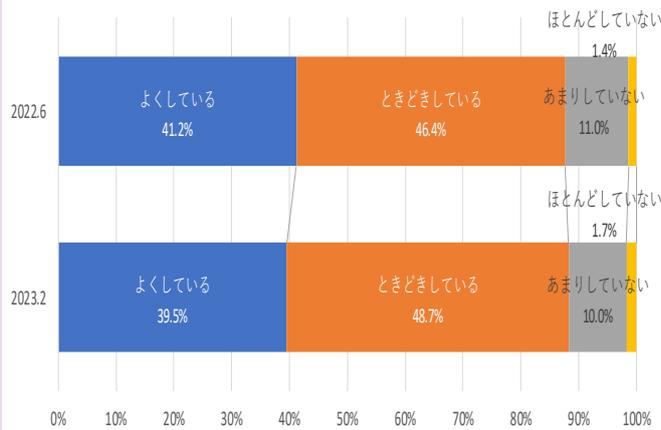
成果と課題

アンケート結果と考察

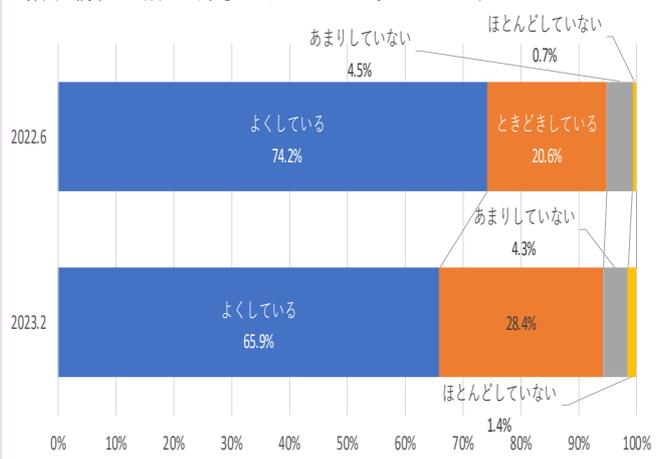
算数の授業では、友達と話し合うことや学習することが好きですか。



算数の授業では、友だちの考えを聞いて、自分の考えを深めていますか。



算数の授業では、難しい問題でもあきらめないで考えていますか。



成 果

《仮説1》

- 問題場面に身近な素材を取り入れることで、学習意欲が高まり、問題解決に粘り強く取り組もうとする姿が見られた。
- 問題を映像で提示することで、数量の関係を捉えたり、何を求めるのか理解したりすることができた。

《仮説2》

- タブレットやテレビを活用することで、考え方を共有したり比較したりすることができ、話し合い活動が充実した。
- ノート指導やワークシートの工夫により自分の考えを書くことに抵抗がなくなってきた。
- ペア学習や少人数のグループ学習を取り入れることで、自分の考えを発表する機会が確保された。

課 題

《仮説1》

- タブレットの使い方には慣れてきたが、ミライシード等の機能をさらに活用し、問題提示場面だけでなく、授業のどこで取り入れると有効なのかを探っていきたい。

《仮説2》

- 発表の型をある程度示すことで、説明の仕方のヒントを与えられるようにする。
- I C Tだけではなく、従来通りの学習（ノートやワークシート等）が適している場面を見極めていく。
- 学習意欲を持ち続けられるよう、基礎となる知識理解（確かな計算力等）も身に付けられるような手立てが必要である。
- 児童の交流は、目的や方法をはっきりさせることで、児童にとって意欲的に取り組める活動とする。